

令和3年5月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	育苗期発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(+)	・ ほ場に置いた補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
	イネミズゾウムシ	並	2月越冬量：やや少(-) 5月上旬発生量：並 5月上旬雑草地すくい取り量：やや多(+)	・ 移植10日後ごろの飛来成虫数が2~3株に1頭以上の場合には、成虫を薬剤防除する。 ・ 移植10日後以降に成虫が多数飛来した時にも、薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	並	5月上旬発生量：並〔発生なし〕 5月上旬雑草地すくい取り量：やや少(-) 気象予報：降水量並か多(+)	・ 越冬成虫の本田侵入最盛期(5月中旬ごろ)の成虫数が10株に2頭以上の場合、又は産卵最盛期(5月下旬ごろ)の卵塊数が1株に1卵塊以上の場合には薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	やや多	5月上旬発生地点率：やや多 5月上旬1㎡当たり平均個体数：並 5月上旬被害株率：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+)	・ 本貝が生息するものの、現時点で被害の無い水田においても、今後の動向に注意し4葉期に達するまでの浅水管理(4cm以下)や薬剤防除を行う。 ・ 千葉県ホームページ「ジャンボタニシ(和名：スクミリンゴガイ)被害防止対策」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html)及び令和2年度病害虫発生情報第1号も参考にする。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	ヒメトビウンカ	並	2月越冬量：並 5月上旬雑草地すくい取り量 ：並 [発生なし] 気象予報：気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 ・ 発生が多い年には飛来期の6月上中旬頃及び出穂期頃に1～2回薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	やや少	2月越冬量：少 (-) 気象予報：気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が多い場合には成虫飛来期の5月中旬～6月に、薬剤防除する。
スイカ	つる枯病	やや多	5月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の排水を良くする。 ・ 多湿を防ぐため、トンネルの換気を十分行う。
	アブラムシ類	並	5月上旬発生量：並 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧に行う。 ・ 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
	ハダニ類	並	5月上旬発生量：並 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (-)	
ナシ	黒星病	やや多	4月下旬発生量：やや多 (+) 気象予報：降水量並か多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 罹病した葉や果実は、伝染源となるので見つけ次第除去し、適切に処分する。 ・ <u>P3「これから注意を要する病害虫」も参照する。</u>
	アブラムシ類	やや少	4月下旬発生量：やや少 (-) 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
温州ミカン	そうか病	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防除適期は落弁直後なので適期に薬剤散布を行う。
	ミカンハダニ	やや少	4月下旬発生量：やや少 (-) 気象予報：気温高 (+) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が多いほ場（寄生葉率30%以上）では薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	並	越冬成虫数：少 (-) 5月サクラ樹払い落とし調査 ：少 (-) 4月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ナシ黒星病

黒星病の主な伝染源は、前年の罹病落葉と、腋花芽のりん片病斑である。

昨年 10 月実施の秋型病斑調査での罹病葉率は平年並、2 月実施の腋花芽りん片調査での罹病芽率は平年よりやや少ない発生であった。

しかし、本年 4 月実施の発病状況調査での発病果率（芽基部及び花こうの病斑）は、0.26%で平年（平年値 0.08%）よりやや多く、発生ほ場率は 14.71%で、平年（平年値 5.52%）より多い発生となった。これは、2 月以降の平均気温が高い影響で開花が早く、開花期前後に数日おきにまとまった降水があったことが要因として考えられる。

5 月 13 日に発表された向こう 1 か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並か多いと発表されている。また、日本気象協会発表の「2 週間天気」では、ぐずついた天気が続くと予想していることから、感染が拡大するおそれがあるので注意が必要である。

<感染好適条件>

- 1 病原菌の生育適温は、15～25℃（最適は 20℃）である。
- 2 降雨等による一定の濡れ条件下（20℃の場合、濡れ時間が 9 時間以上）で感染する。
- 3 果実の本病の感受性は、開花直後から 20 日頃が高い。ただし、「幸水」は開花後 55 から 90 日にも感受性が高くなるので注意する。

<防除法>

- 1 本病の病斑の除去がその後の蔓延を防止するうえで重要なので、発病葉、発病果実等は見つけ次第除去し、適切に処分する。なお、幼果はどの品種も感染しやすいので注意する。
- 2 薬剤散布は、かけむらのないよう、ていねいに行う。
- 3 それぞれの園での発生状況や今後の気象状況に留意し、防除適期を逃さないようにする（表 1）。
- 4 耐性菌対策のために、同系統の薬剤の連用を避ける（表 2）。なお、薬剤の選定にあたって、疑問点等がある場合は、普及指導員、営農指導員に相談すること。

表 1 5 月中旬から 6 月上旬の黒星病防除薬剤
（病害虫防除指針（幸水・豊水・その他赤ナシ）から抜粋）

時 期	薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期／使用回数
5 月中旬	ベルコートフロアブル（注 1）	1,500 倍	収穫 14 日前まで／5 回
5 月下旬	有機銅フロアブル（注 2）	1,000 倍	収穫 3 日前まで／9 回
6 月上旬	ベルコートフロアブル	1,500 倍	収穫 14 日前まで／5 回

注 1 黒星病の多発生が心配される場合は、ユニックス顆粒水和剤 47 の 2,000 倍液（収穫 21 日前まで／3 回）とベルコートフロアブル 1,500 倍液を追加散布する。

注 2 有機銅フロアブル剤には「キノンドー」「ドキリン」がある。

表2 黒星病防除に使用する各薬剤系統の種類，使用回数の目安（病害虫防除指針から抜粋）

系統名	防除指針での使用回数	殺菌剤の例（商品名）
DMI剤	3	マネージDF，スコア顆粒水和剤，インダーフロアブル，アンビルフロアブル，オンリーワンフロアブル，オーシャイン水和剤，オルフィンプラスフロアブル（注） アクサーフロアブル（注）
QoI剤	2	アミスター10フロアブル，ストロビードライフロアブル，ナリアWDG（注），ファンタジスタ顆粒水和剤，スクレアフロアブル
AP剤	1	フルピカフロアブル，ユニックス顆粒水和剤47
SDHI剤	1	ナリアWDG（注），アフェットフロアブル，パレード15フロアブル，フルーツセイバー，オルフィンプラスフロアブル（注），ネクスターフロアブル，アクサーフロアブル（注），カナメフロアブル，セルカディスDフロアブル（注）

注 ナリアWDGはQoI剤とSDHI剤の混合剤，オルフィンプラスフロアブル，アクサーフロアブルはDMI剤とSDHI剤の混合剤である。セルカディスDフロアブルはSDHI剤とジチアノンの混合剤である。

（参考）

- DMI剤：黒星病，赤星病に卓効を示すが，国内で耐性のある黒星病菌が発生した。
- QoI剤：黒星病，炭疽病に高い防除効果を示す。国内で耐性のリンゴ黒星病菌，炭疽病菌が発生した。
- AP剤：黒星病に高い防除効果を示す。コムギ灰色かび病で耐性菌の報告があるが，ナシでは報告はない。
- SDHI剤：黒星病，赤星病に高い防除効果を示す。ナシでは耐性菌の報告はないが，キュウリ等では流通した翌年から耐性菌が問題になる等，耐性菌の発生リスクが高い薬剤と考えられる。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬，スイカ：5月上旬，果樹：4月下旬，果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	2月調査
		籾枯細菌病	0.00	0.29	0.03	
		苗立枯病	0.11	0.20	1.06	
	ばか苗病	苗の発病度	0.59	0.18	0.18	
		被害株率(%)	0.00	0.09	0.06	
		畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.23	1.89	0.43	
	イネヒメハモグリバエ	成虫寄生株率(%)	1.46	1.46	2.90	
		被害株率(%)	5.21	4.74	10.17	
		雑草地すくい取り成虫数	1.02	0.29	0.39	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率(%)	0.11	0.07	0.00	
		被害株率(%)	0.56	0.18	0.23	
		雑草地すくい取り成虫数	0.09	0.39	0.09	
	イネゾウムシ	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.18	0.00	
		被害株率(%)	0.00	0.11	0.00	
		雑草地すくい取り成虫数	0.09	0.39	0.09	
イネドロオウムシ	発生地点率(%)	13.85	8.44	18.64		
	1㎡当たり個体数	0.16	0.14	0.20		
	被害株率(%)	0.00	0.20	0.08		
スクミリンゴガイ	畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	2.02	2.35	4.64		
	雑草地すくい取り成虫数	0.00	0.01	0.04		
	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.00	0.12	0.03		
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	うどんこ病	成幼虫寄生葉率(%)	0.40	0.58	0.00	
		雌成虫寄生葉率(%)	0.20	0.20	0.60	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病果率(%)	0.26	0.08	0.00	
		発生ほ場率(%)	14.71	5.52	0.00	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
		被害葉率(%)	0.00	0.04	0.03	
		雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.09	1.26	0.34		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.04	0.03	0.00	
	かいよう病	発病度	0.16	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.60	6.40	1.60	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	1.00	2.20	3.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.48	0.00	
果樹共通	果樹カメムシ類 (安房)	サクラ樹払い落とし虫数 (1網あたり捕獲成虫数)	0.19	1.57	1.20	
	チャバネアオカメムシ (県内全域)	越冬成虫数(頭/3㎡)	0.01	0.41	0.43	

トラップ月間誘殺数(4月) * 種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(*)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	0.7	11.7	0.3	頭/月
	イネヨトウ	〃	0.3	0.3	0.0	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.1	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	0.1	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	1.4	3.0	
	カメムシ類	〃	0.0	1.7	3.0	

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（*）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	7.0	1.7	1.4	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.4	0.6	0.5	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.4	0.0	0.0	
	オオタバコガ	県内全域	0.3	0.2	0.2	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾, 印旛	1.7	1.2	0.8	
	モモシンクイガ	東葛飾, 印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾, 印旛	1.7	1.2	0.8	
	チャハマキ	東葛飾, 印旛	0.8	1.0	0.3	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾, 印旛	1.8	1.0	0.9	
	ハマキムシ類	東葛飾, 印旛	2.6	1.9	1.2	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.4	0.6	0.6	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	0.0	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	"	0.0	0.1	0.1	
	カメムシ類	"	0.4	0.7	0.7	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	"	0.2	0.6	2.1	

○気象予報

5月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	50	30	20

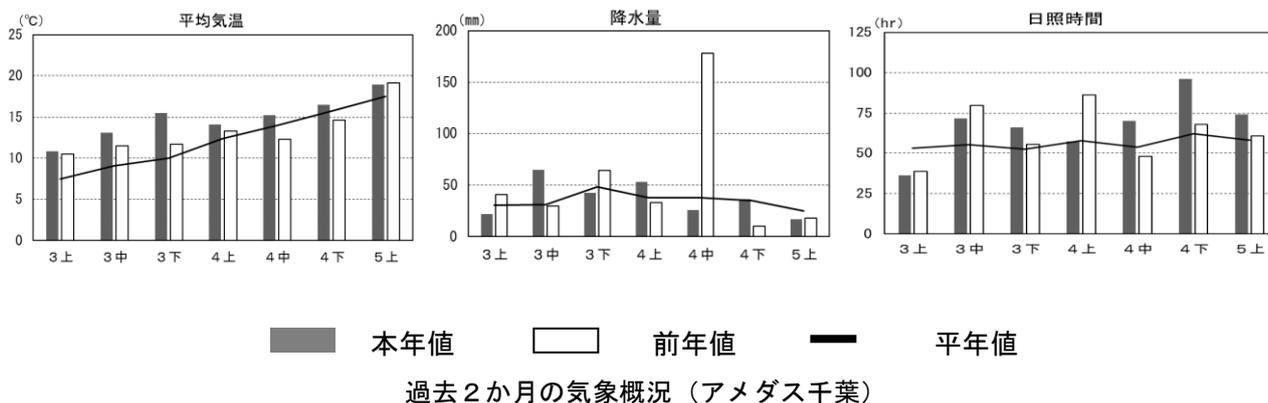
出典：気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(5月18日～6月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	19.9	18.3	19.7
降水量(mm)	109.6	122.7	151.5
日照時間(hr)	149.8	160.4	154.1



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は6月15日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

